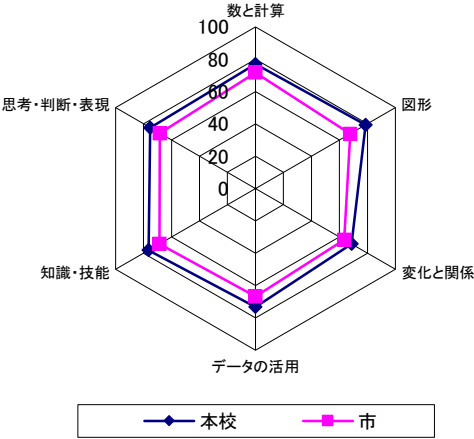


宇都宮市立横川中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	77.1	71.8	76.2
	図形	78.7	67.7	67.8
	変化と関係	68.7	63.4	62.7
	データの活用	73.4	66.7	61.5
観点別	知識・技能	76.4	68.6	70.7
	思考・判断・表現	75.2	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○校内正答率は77.1%で、市の正答率を5.3ポイント上回った。 ○図を見て、小数倍の文章問題(何倍かを求める)を解くために除法の立式をする問題では、市の校内正答率を6.2ポイント上回った。 ●小数第一位×小数第一位(純小数同士の乗法)の計算問題の校内正答率は63.4%で、市の正答率より3.1ポイント下回っている。	問題場面を的確に捉え、数量の関係を図や数直線、線分図、テープ図などで正確に表すことで、問題を解決することができるよう計画的に指導・支援をしていく。また、文章問題や日常生活に関わる問題を解く機会を随時設定し、数量の関係について自分の言葉で記述して表現したり説明したりするような数学的活動を積極的に取り入れることで、基礎・基本の着実な定着を図っていく。
図形	○校内正答率は78.7%で、市の正答率を11.0ポイント上回った。 ○高さが図形の外にある平行四辺形の面積を求める式を理解しているかを問う問題の校内正答率は87.8%で、市の正答率を5.5ポイント上回っている。 ○線対称な図形について、対称の軸が何本あるかを求める問題の校内正答率は85.4%で、市の正答率を29.5ポイント上回っている。	図形の学習では、図形の感覚を豊かにし、性質を実感することができるようにするため、各学年で必要な知識・技能を確実に習得しながら、獲得した知識同士を互いに結び付けていくことが大切である。図形に関する基本的な知識・技能を身に付け、課題解決に生かすなど活用することができるようにするため、日々の学習活動で具体物を用いたり作図を行う中で数学的な表現を用いて自分の考えを説明する場を設け、取り入れたりするなどの数学的活動の充実を図るようにしていく。
変化と関係	○校内正答率は68.0%で、市の正答率を5.3ポイント上回った。 ○図から面積と数の割合を求め、どのうさぎ小屋が最も混んでいるかを考察する、単位量あたりの大きさに関する問題の校内正答率は81.7%で、市の正答率を1.7ポイント上回っている。 ○基準量と比較量から割合を求める、単位量あたりの大きさに関する問題の校内正答率は64.8%で、市の正答率を14.1ポイント上回っている。	単位量あたりの大きさや速さ、割合をはじめとする変化と関係に関する問題に対しては、自分の考え方を数直線や線分図、式、言葉などを使って表したり、自分の言葉で分かりやすく友達や教師に説明したり、教師や友達の説明を聞いた後に、改めて補足したりするなどの数学的活動を計画的に取り入れるようにする。また、既習の学習内容を繰り返し復習し、身近な生活の中で学習した知識を日常生活で積極的に活用していくようにすることで、基礎・基本の確実な定着を図ったり、活用することのよさに気付いたりすることができるようにする。
データの活用	○校内正答率は73.4%で、市の正答率を6.7ポイント上回った。 ○帯グラフを読み取って説明する問題の校内正答率は42.7%で、市の正答率を8.2ポイント上回った。 ●ヒストグラムを正しく読み取れるかを問う問題の校内正答率は84.1%で、市の正答率を0.6ポイント下回っている。	帯グラフや円グラフをはじめ、様々なグラフや各種のデータを正確に読み取り、日常生活と算数の問題場面とを関連付けて、問題解決の方法を自分の言葉や式で説明するような数学的活動を計画的に取り入れる。引き続き、計画的に学級全体での指導を行いながら、個の実態に応じた、きめ細かな支援をしていくことで、それぞれのグラフのよさやデータの特徴や傾向に気付くことができるようにしていく。また、既習事項を生かし、算数だけでなく、他教科や領域の学習や身近な生活の中で活用するようにしていくことで、それぞれのグラフのもつよさやデータの特徴・傾向に気付くことができるようにする。